

閲覧用

別冊 2

平成29年船橋市教育委員会会議
6月定例会

報告事項(1) (仮称)塚田第二小学校の通学区域について

(仮称) 塚田第二小学校 通学区域素案についての関係者からの意見など

学校からの意見

<中学校について>

●小学校が新設されるとのことだが、中学校も建設されないと不足するのではないか。
⇒行田3丁目の国家公務員宿舎船橋行田住宅跡地を、中学校建設用地と行田中学校の
拡張用地として、今年度中に取得する予定である。

<既存の学校について>

●「AGCテクノグラス株式会社中山事業場跡地に開発される住宅への入居開始時期
は、新設小学校の開校より早い」とのことだが、入居から開校までの期間は、(現在の
通学区域である) 行田東小学校へ通学することになるのか。
⇒そのように考えている。

<通学路について>

●保護者としては、通学路が気にかかると思われる。特に、踏切を渡るという点につ
いて、懸念されるのではないか。
⇒担当部署である、保健体育課へ伝える。
●通学路の現状を視察するのであれば、登校の時間帯など、実際に子どもが通学する
様子を見ていただきたい。

地域住民（塚田地区連合自治会役員・関係小学校評議員等）からの意見

<通学区域について>

●5校から入学校を選択できる状況は、地域コミュニティとしてはまとまりを欠く。これまで、5校からの選択であった北本町2丁目の通学区域が、「北部は塚田小学校、南部は新設小学校」とそれぞれ1校にまとまる「素案」は、地域コミュニティ側からすると好ましい話である。

●新設小学校の通学区域のうち、新設小学校に最も近いエリアで、町会が一部分断されている場所（北本町2丁目41番）があるものの、これについては新設小学校の目の前である為、止むを得ない面もある。しかしながら、北本町2丁目の東側で、町会の線引きと通学区域が合致していない部分については、合わせたほうが良いかもしれない。

●新設小学校が開校する際、「新設小学校の通学区域に居住していて、既に他校へ在籍している児童」の（新設小学校への）移行方法については、どのように考えているのか。

⇒様々な方法が考えられる。現在、どのような方法をとるか検討している段階である。

●現在の行田東小学校の通学区域は、「元々の行田東小学校の通学区域」に、後から北本町が付いた形である。素案で示された行田東小学校の通学区域は「行田東小学校の元々の通学区域」に近いので、それほど違和感はない。しかしながら、北本町が抜けることで、今後、行田東小学校の児童数は減少してしまうのではないか。

⇒日本建鐵の跡地利用については、所有者から白紙であると聞いているが、宅地開発される可能性もある。日本建鐵跡地の通学区域は行田東小学校であるため、開発に備えて、行田東小学校にある程度の余地を残しておく必要がある。

●「新設小学校南側に隣接する戸建て」の通学区域について、素案では行田東小学校となっているが、どこの町会にも属していないのであれば、新設小学校でも良いのではないか。

⇒所属する町会を確認した上で、どの学校の通学区域とするか検討する。

●町会内で通学区域が分かれてしまうと、「災害時に町会としての避難先としている学校」と「子どもの通学している学校」が異なることがあるので、なるべく町会単位でまとまった通学区域とした方が良い。

⇒今回の素案を作るにあたり、おおよその町会が分断されることなく、1つの小学校の通学区域に収まるように努めた。

<中学校について>

●いずれは中学校も不足するのではないか。

⇒行田3丁目の国家公務員宿舎船橋行田住宅跡地を、中学校建設用地と行田中学校の拡張用地として、今年度中に取得する予定である。

<通学路について>

●保護者が一番心配している点は、通学路の安全性である。東武線沿いの歩道は、幅が狭く交通量も多いため、危険性を感じる。整備が必要ではないか。

⇒通学路の担当である保健体育課へ伝え、教育委員会として問題の共有を図る。なお、(訪問時には同席していなかったが)地域説明会には、担当の保健体育課も同席してもらう予定である。

●森のシティからの通学路については、東武線沿いの歩道ではなく、北本町の中を通過して、ブライトシティの前から踏切を渡るルートが良いと思う。

●森のシティからの通学路については、東武線沿いの歩道が拡張されるのであれば、線路沿いの歩道を北上するルートが良いと思う。